

金沢大学

文系後期一括

理系後期一括

入試案内 2019

Contents

1 「文系後期一括, 理系後期一括」入試	P1
2 一括入試で入学することの魅力	P3
3 金沢大学の募集単位	P4
4 学類の定員と募集人数及び 「文系後期一括, 理系後期一括」入試の学類移行人数	P5
5 試験科目と配点	P6
6 総合教育部	P7
7 学類選択・学修(習)支援体制	P9
8 学類等への移行	P10



1

「文系後期一括, 理系後期一括」入試

アドミッション・ポリシー

金沢大学では、「専門知識と課題探求能力,そして国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材の育成」を大学憲章において教育目標に掲げています。さらに金沢大学〈グローバル〉スタンダード(KUGS)では,科学的な世界観と歴史観,論理的展開力,己を磨く人間力,創造力,そして日本文化・異文化に対する深い理解力を備え,知識基盤社会の中核的リーダーとなって挑戦し続ける人材の育成に努めることを謳っています。金沢大学は,上述の目標と大学に求められる社会的役割を踏まえ,入学後の学修,研究に必要な基礎学力を有し,さらに豊かな教養の涵養,高い専門性の修習を目指す学生が入学することを期待します。

特に「文系後期一括,理系後期一括」入試においては,様々な分野にまたがって強い興味と関心を持ち,幅広い分野に触れて自らの視野を広げながら主体的に学ぶ熱意があり,かつ,積極的に課題を発見して取り組む意欲のある人を受け入れます。

後期一括入試で入学した学生は,国際基幹教育院 総合教育部に1年間所属し,文系の場合は人文科学・社会科学に関する分野を,理系の場合は自然科学に関する分野を広く学び,2年進級時に,本人の志望,学業成績等を考慮の上,文系の場合は人間社会学域の中から,理系の場合は理工学域もしくは医薬保健学域(薬学類を除く)の中から移行する学類(保健学類の場合は専攻)を決定します。

求める人材

- ・多様な分野にまたがり強い興味と関心を持つ人
- ・幅広い分野に触れて自らの視野を広げながら主体的に学ぶ熱意がある人
- ・積極的に課題を発見して取り組む意欲のある人
- ・リーダーシップと協調性を持つ,あるいはこれからそれらを身につけることを目指す人
- ・意思決定に伴う責任を自覚した上で,客観的かつ科学的な状況分析を心がける人

選抜の基本方針

一般入試(後期日程)

文系後期一括入試では,基礎学力に加え,総合的な課題(総合問題)の理解力・論理的思考力・表現力等を重視します。総合的な課題(総合問題)には英語を含む場合があります。理系後期一括入試では,数学及び英語の基礎学力に加え,物理もしくは化学の学力を重視します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校等で学ぶ教科全般について基礎的な知識と理解力・思考力・表現力を身につけておくことが望まれます。

「文系後期一括, 理系後期一括」入試の概要

金沢大学では入学の基本的な単位を「学類」とすることで、これまでの「学部・学科」よりも幅広い、大きな枠組みでの入試を行っています。学類で学びの基礎を固めつつ、自分が本当にやりたいテーマを探していくことができます。それだとしても、高校の学びの中で、自分が大学で学びたいことを絞り切れずに悩む人も少なくはありません。例えば、物理が得意だけれど、それを探究する方向に進むか応用する方向に進むかが決められなかったり、文学にも興味があるけれど同じくらい国際活動にも興味があり、どちらか一つに決められなかったりする人もいます。そこで金沢大学は「学ぶ内容や所属する学類を、入学した後に決めたい人」のために、入学してからの1年間、自分が本当に学びたいことは何なのか、将来どのようなことがしたいのかを十分考えた上で学類もしくは専攻へ移行することができる【「文系後期一括, 理系後期一括」入試】を平成30年度入試(平成29年度実施)から導入しました。様々な専門分野に触れることのできる大学の環境の中で、十分に時間をかけて考え、納得した上で学類もしくは専攻の選択に臨むことができます。ぜひ、「文系後期一括, 理系後期一括」入試にチャレンジしてください。

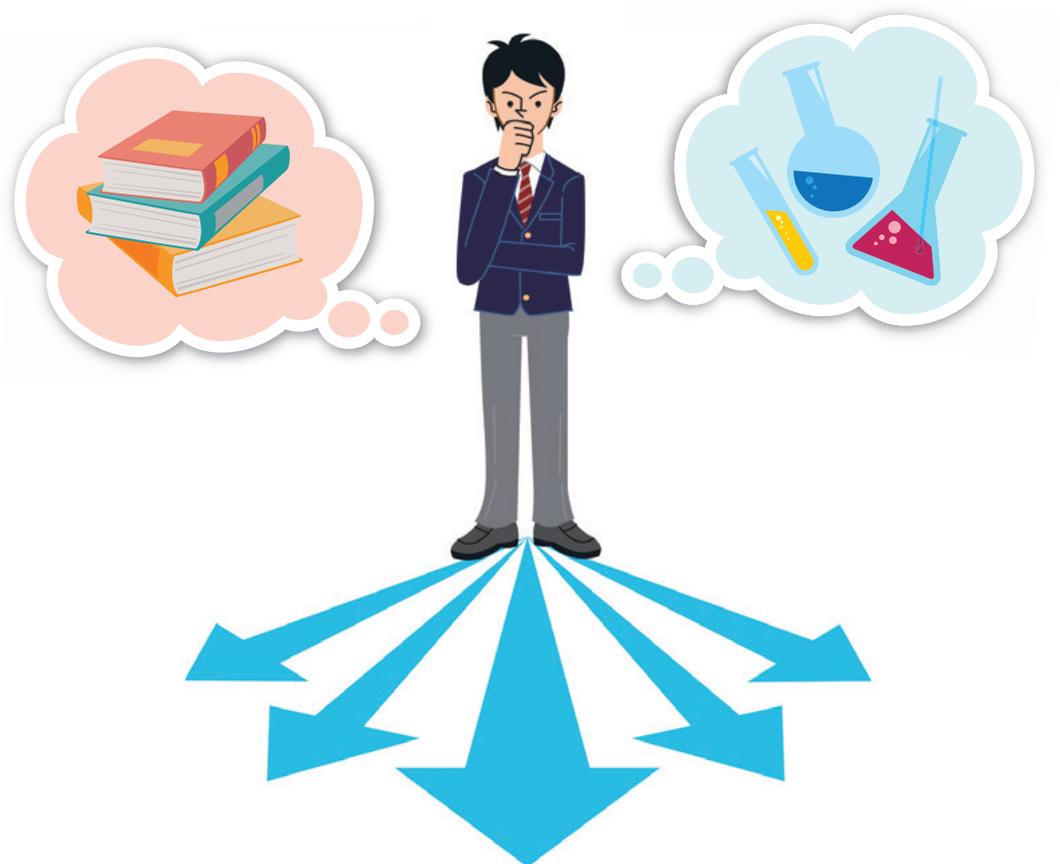


2

一括入試で入学することの魅力

進路選択は正解が一つだけではない問題で、そこに自分が納得のいく答えを見出すには、たくさんのことを学んで、いろんな人に相談したり、様々な経験をする必要があります。進路に悩みながら答えを見つけようとする過程は、人を大きく成長させる大事な過程でもあります。しかし、高校までにそのような悩みを深め、そこから答えを見出すには、時間も知識も経験も限られています。多くの高校生が漠然とした不安を抱きながら、限られた時間や知識や経験の中で、専門分野の選択を迫られているのが大学入試の現状です。**大学入学後に幅広い学問分野に触れて、体験し、理解を深めながら専門分野を選択したいとは思いませんか？**

一括入試の魅力は、入学後、大学の中で学びながら1年間をかけて、これから自分が進む学類もしくは専攻を選択できるということです。総合大学である金沢大学では、様々な分野を専門とする教員が教育・研究活動をしており、身近な環境でその活動を知ることができます。学内での説明や見学で、その活動の一端を体験できる機会もあるでしょう。また、学類の学生と交流することで、その学類ではどんなことが学べるのか、その分野にはどんな魅力があるのかといったことを、同じ学生の目線で話を聞くことができます。さらには、「文系後期一括、理系後期一括」入試で入学した学生を担当する文系と理系のそれぞれのアカデミック・アドバイザーから進路についてのきめ細やかなアドバイスを受けることができます。このように、**大学の中で学びながら、高校やインターネットでは十分に得ることのできない知識や情報を得て理解を深めた上で進路選択に臨めるのが一括入試で入学することの魅力**と言えるでしょう。



3

金沢大学の募集単位

本学の学生募集の単位は従来は学類が基本で、推薦入試については学類単位の他、コースや専修(学校教育学類)、専攻(保健学類)が単位となっていました。平成30年度入試(平成29年度実施)からは理工学域において、前期日程で「理工3学類(機械工学類, フロンティア工学類, 電子情報通信学類)前期一括入試」を導入しました。また、後期日程では文系、理系での大括り入試である「文系後期一括, 理系後期一括」入試を開始しました。なお、AO入試では薬学類、創薬科学類とそれぞれ人員を分けて募集しています。

金沢大学入学者選抜の概念図

	前期日程	後期日程	推薦入試	AO入試
文系	人文学類	文系後期一括入試	法学類	
	法学類		経済学類	
	経済学類	人文学類	学校教育学類 ^{※2}	
	学校教育学類	法学類	地域創造学類 ^{※3}	
	地域創造学類	地域創造学類	国際学類	
	国際学類	国際学類		
理系	数物科学類	理系後期一括入試	医学類	薬学類
	物質化学類		保健学類 ^{※1}	創薬科学類
	理工3学類 前期一括入試 機械工学類 フロンティア工学類 電子情報通信学類		数物科学類	
	地球社会基盤学類	物質化学類		
	生命理工学類	地球社会基盤学類		
	医学類	保健学類 看護学専攻 放射線技術科学専攻 検査技術科学専攻		
	薬学類・創薬科学類			
	保健学類 ^{※1}			

※1 前期日程及び推薦入試の保健学類は、すべての専攻で募集します。

※2 推薦入試の学校教育学類は、枠又は専修ごとに募集します。

※3 推薦入試の地域創造学類は、福祉マネジメントコース、環境共生コース、地域プランニングコースのみ募集します。

4

学類の定員と募集人員及び「文系後期一括, 理系後期一括」入試の学類移行人数

学域・学类等	入学定員	募集人員								
		一般入試			推薦入試	A〇入試	入試 帰国子女	バ カ ロ レ ア 国際入試		
		前期日程	後期日程	後期一括						
人間 社会 学域	人文学類	145	100	32	文系 62 移行人数 [人文学類 13 法学類 15 経済学類 15 学校教育学類 2 地域創造学類 10 国際学類 7]	—	—	若干名	若干名	
	法学類	170	115 L方式 70 M方式 45	30		推薦入試Ⅱ 10	—	若干名	若干名	
	経済学類	135	110	—		推薦入試Ⅰ 10	—	若干名	若干名	
	学校教育学類	100	64	—		推薦入試Ⅱ 34 石川県教員希望枠 8 専修枠 26 [国語・社会科・英語教育専修 3 数学・理科教育専修 3 音楽教育専修 4 美術教育専修 3 保健体育専修 5 家政教育専修 3 特別支援教育専修 5]	—	—	若干名	
	地域創造学類	90	55	10		推薦入試Ⅱ 15 [福祉マネジメントコース 5 環境共生コース 5 地域プランニングコース 5]	—	若干名	若干名	
	国際学類	85	48	15		推薦入試Ⅰ 15	—	若干名	若干名	
	計	725	492	87		84 推薦入試Ⅰ 25/推薦入試Ⅱ 59	—	—	—	
理工 学域	数物科学類	84	64	12	理系 82 移行人数 [数物科学類 8 物質化学類 8 機械工学類 10 フロンティア工学類 20 電子情報通信学類 8 地球社会基盤学類 10 生命理工学類 9]	—	—	若干名	若干名	
	物質化学類	81	55	18		—	—	若干名	若干名	
	機械工学類	100	252 (3学類前期一括※)	—		—	—	若干名	若干名	
	フロンティア工学類	110	移行人数 [機械工学類 90 フロンティア工学類 90 電子情報通信学類 72]	—		—	—	若干名	若干名	
	電子情報通信学類	80	—	—		—	—	若干名	若干名	
	地球社会基盤学類	100	78	12		—	—	若干名	若干名	
	生命理工学類	59	50	—		—	—	若干名	若干名	
	計	614	499	42		—	—	—	—	
医薬 保健 学域	医学類(6年制)	112	84	—	[医学類 1 創薬科学類 2 保健学類 看護学専攻 1 放射線技術科学専攻 1 検査技術科学専攻 2 理学療法科学専攻 1 作業療法科学専攻 1]	推薦入試Ⅱ 27 一般枠15/特別枠12	—	若干名	—	
	薬学類(6年制)	35	—	—		—	3	若干名	若干名	
	創薬科学類	40	64	—		—	6	若干名	若干名	
	保健学類	看護学専攻	80	55		9	推薦入試Ⅱ 15	—	若干名	若干名
		放射線技術科学専攻	40	29		5	推薦入試Ⅱ 5	—	若干名	若干名
		検査技術科学専攻	40	29		3	推薦入試Ⅱ 6	—	若干名	若干名
		理学療法科学専攻	20	15		—	推薦入試Ⅱ 4	—	若干名	若干名
		作業療法科学専攻	20	14		—	推薦入試Ⅱ 5	—	若干名	若干名
		小計	200	142		17	推薦入試Ⅱ 35	—	—	—
	計	387	290	17		推薦入試Ⅱ 62	9	—	—	
合計	1,726	1,281	146	144	146 推薦入試Ⅰ 25/ 推薦入試Ⅱ 121	9	—	—		

*「理工3学類(機械工学類, フロンティア工学類, 電子情報通信学類)前期一括入試」の略称

5

試験科目と配点

	大学入試センター試験科目	個別学力検査等
文系	国語 国語 地理歴史 世B, 日B, 地理Bから1 公民 現社, 倫, 政経, 倫・政経から1 数学 数Ⅰ・数A と 数Ⅱ・数B 理科 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 外国語 英 ^{※2} 必修 [3教科3科目], [3教科4科目] 又は [3教科5科目]	から2~4 ^{※1} 200点 200点 総合問題 300点 (英文を含む場合があります)
	数学 数Ⅰ・数A と 数Ⅱ・数B 必修 100点 外国語 英 ^{※2} 必修 100点 [2教科3科目]	理科 300点 (物基・物理, 化基・化学から1)

- ※1 「国語」, 「地理歴史」, 「公民」, 「数学」, 「理科」から2教科を選択します。「国語」, 「地理歴史」, 「公民」, 「数学」, 「理科」から3科目となるのは、「数学」2科目もしくは「理科」の基礎を付した科目2科目と他教科の1科目の場合のみです。また、「国語」, 「地理歴史」, 「公民」, 「数学」, 「理科」から4科目となるのは「数学」2科目と「理科」の基礎を付した科目2科目の場合のみです。
- 大学入試センター試験の「地理歴史」「公民」を2科目受験している場合、第1解答科目の成績を優先して利用します。よって、第2解答科目の成績を利用するのは、指定した教科・科目の範囲(「外国語」を除く)で高得点の上位2科目が「地理歴史」「公民」の第1解答科目及び第2解答科目である場合のみです。
- ※2 大学入試センター試験の英語については外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は「平成31年度(2019年度)入学者選抜に関する要項」17ページ「3入学者選抜の実施教科・科目等」の留意事項7を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

「文系後期一括」入試では大学入試センター試験においては、「国語」, 「地理歴史」, 「公民」, 「数学」, 「理科」から2教科(2科目~4科目)を選択し、外国語(英語)を必修とする3教科(3科目~5科目)を課します。個別学力検査等での総合問題では文系一括入試では、和文の資料(英文を含む場合があります)を素材として、資料の読解や分析を通じて、設問に答える形式の出題を行います。設問に対する解答は記述式とし、解答者の問題に対する分析力, 思考力, 判断力, そして表現力等の資質を判定する試験とします。

「理系後期一括」入試では大学入試センター試験では数学(「数学Ⅰ・数学A」と「数学Ⅱ・数学B」)と外国語(英語)の2教科3科目を課します。個別学力検査では理科(物基・物理, 化基・化学から1科目選択)を課します。

試験区分と学類への移行について

後期一括入試の志願者は、出願時に「文系後期一括」又は「理系後期一括」を選択しますが、それぞれ2年次に移行可能な学類は異なります。

「文系後期一括」入試の入学者は人間社会学域の6学類の中から、「理系後期一括」入試の入学者は理工学域の7学類及び医薬保健学域(薬学類を除く)の3学類の中から移行する学類(保健学類の場合は専攻)を決定します。各学類への移行人数は5ページをご覧ください。

試験区分	移行可能な学類	試験区分	移行可能な学類
文系後期一括	人文学類	理系後期一括	数物科学類
	法学類		物質化学類
	経済学類		機械工学類
	学校教育学類		フロンティア工学類
	地域創造学類		電子情報通信学類
	国際学類		地球社会基盤学類
			生命理工学類
			医学類
			創薬科学類
			保健学類

6

総合教育部

後期一括入試で金沢大学に入学すると、1年次の間、国際基幹教育院の「総合教育部」に所属することになります。総合教育部では、文系、理系ごとにそれぞれ共通したカリキュラムに基づいて、充実した共通教育(教養教育・基礎教育)を受けます。



※文系では理系学類、理系では文系学類への移行、および薬学類への移行はできません。

※総合教育部在籍中の転学類はできません。

① クラス編成

総合教育部では、文系62名が3クラス、理系82名が4クラスに編成され、各クラスの担任教員が学修(習)上や生活上の相談にあたります。また、アカデミック・アドバイザーからの進路支援・履修支援のもと、一人ひとりの進路に沿った履修計画を行います。進路に悩む時にはアカデミック・アドバイザーから各学類の情報や説明を受け、一人ひとりに合った進路選択を行います。

② 充実した教養教育・基礎教育

1年次には、「共通教育科目」が開講されます。アカデミック・アドバイザーのサポートのもと、一人ひとりの将来を見据えた進路選択の準備期間となります。

導入科目では、新生ができるだけ早く大学のあり方に慣れ、大学生らしい学修(習)態度、生活態度を身につけて、将来を見据えながら充実した大学生活を過ごせることを目的としています。また、各学類についての紹介など、進路選択に向けた説明も行っています。

GS科目は、世界で活躍する「金沢大学ブランド」人材育成のために設けられた本学独自の教育方針である「金沢大学〈グローバル〉スタンダード(Kanazawa University “Global” Standard;以下「KUGS」)」に基づいて考案された新たな授業科目です。

学士課程のKUGSは次の5項目よりなっており、

1. 自己の立ち位置を知る
2. 自己を知り、自己を鍛える
3. 考え・価値観を表現する
4. 世界とつながる
5. 未来の課題に取り組む

この5項目それぞれに6つのGS科目が配置されています。各群から3科目以上選択して履修すれば、目標とする5つの学修(習)成果を達成できるように設計されています。

GS言語科目には英語科目と留学生を対象とした日本語科目があります。それぞれ「GS言語科目(英語)」「GS言語科目(日本語)」と呼ばれます。また、英語・日本語以外の言語科目を初習言語科目といいます。共通教育科目として、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語、ギリシア語・ラテン語、スペイン語が開講されます。基礎科目は、数学、物理学、化学、地学の分野に属する科目で、理系の学生を対象にしています。自由履修科目は、GS科目、基礎科目および初習言語科目の最低修得要件を超えて修得した科目、ならびにその他の共通教育科目(導入科目及びGS言語科目を除く)を指します。

後期一括入試で入学した学生は、共通教育科目を受けながらアカデミック・アドバイザーと進路設計をし、進級したい学類・専攻、自分の将来について考えることができます。

共通教育科目

導入科目	GS科目
GS言語科目	初習言語科目
基礎科目	自由履修科目

学類選択・学修(習)支援体制

金沢大学では、後期一括入試で入学した学生一人ひとりが充実した進路選択を行えるよう、また学修(習)で困ったときに支えられるように様々な支援体制を整えています。総合教育部に関わる具体的な支援体制を紹介します。

進路・学類選択支援

後期一括入試で入学した学生は、1年次は総合教育部に所属し、2年次に各学類(保健学類では専攻)に移行します。1年間の大学での学びや様々な経験をもとに自分の興味や適性にあった学類に進めるという利点がある一方で、どうやって自分の進路を決めればいいのか悩んでしまうこともあるかもしれません。そこで金沢大学ではアカデミック・アドバイザーという専任の教員が学生の学類選択をサポートします。

アカデミック・アドバイザーとは、面談等を通して学生の興味・能力が最大限に活かせる学類・進路に進めるように履修等に関してサポートする教員です。各学類・専攻等の情報提供、各学類の教員や先輩学生との連絡、履修相談などの様々な場面で支援を行います。

学修(習)支援

普段の学修(習)で困ったことがあれば図書館で学修(習)支援を受けることができます。図書館にはラーニング・アドバイザー(LA)と呼ばれる学生サポーターがいます。支援内容は大学での学びに必要な基本的なアカデミックスキル(レポート、プレゼン資料作成など)、基礎科目(数学・物理・化学・地学)、英語学習など多岐に及びます。その他、留学生支援を行っている Learning Concierge for International Students(LeCIS)と外国語会話を練習することもできます。また、様々なイベントなども開催しています。

<イベント例>

- ・English Hour: 留学生と気軽に英語で話せるイベント
- ・「卒論・レポートのための資料の集め方」講座
- ・ラーニングサポートウィーク



ランチョンセミナー

昼休みに食事をとりながら気軽に参加できるセミナーとして、学修(習)や学生生活に関わる事柄に関するセミナーを開催しています。主に1年生を対象としており、大学生活へのスムーズな移行が出来るようなトピックが用意されています。

<ランチョンセミナー事例>

- ・大学での学び、学修(習)支援リソース紹介
- ・レポート書き方入門
- ・Microsoft Office (Word, Excel, Power Point)の使い方入門
- ・就活生になって後悔しないための夏休みの過ごし方など、学生からのリクエストも受け付けています。



8

学類等への移行

1年間学んだ後、総合教育部の学生は2年次に各学類(保健学類では専攻)へ移行します。総合教育部文系学生は人間社会学域, 総合教育部理系学生は理工学域, もしくは医薬保健学域の各学類へ移行します。移行先の学類は本人の志望と、移行点対象科目の成績(移行点)によって決定されます。文系・理系で移行点対象科目が異なります。また、「移行点」の算出は公正に行われます。

総合教育部の年間スケジュール(予定)

前期(4月～7月)

- アカデミック・アドバイザーとの面談・履修設計
- 学類選択への準備(先輩や学類教員との懇談会)
- 第1次予備志望調査
- 第1次予備志望調査結果発表

9月下旬～10月上旬

- 第2次予備志望調査
- 第2次予備志望調査結果発表

2月下旬～3月上旬

- 志望調査
- 志望調査結果発表
- 第1次進路登録・移行学類決定

3月中旬

- 第2次進路登録・移行学類決定
- 第3次進路登録・移行学類決定

＼移行学類決定！／



※スケジュールは変わる可能性があります。

① 志望調査

後期一括入試入学者は前期(4月～7月)の間にアカデミック・アドバイザーとの面談を行い、先輩や学類教員との懇談等、学類選択への準備をします。様々な学類を見て自分に合った学類選択を行えるようアカデミック・アドバイザーがサポートします。

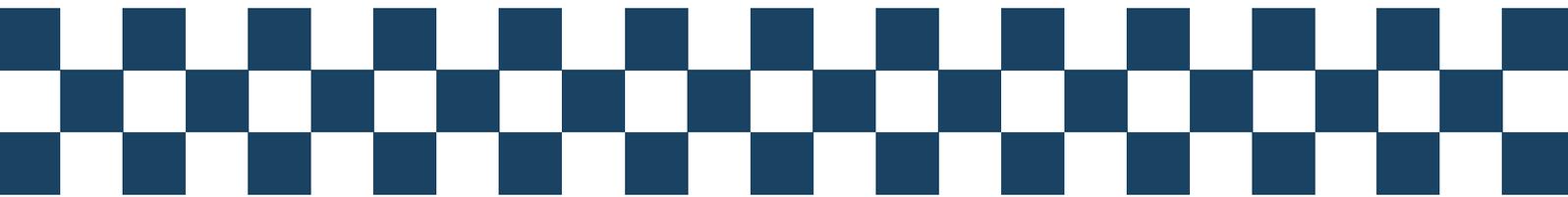
前期の第1次予備志望調査を経て、前期の成績を各自確認後に第2次志望調査(9月下旬)及び後期(10月～1月)の成績を各自確認後に志望調査(2月下旬)を行います。この調査では、それぞれの時点での学類・専攻ごとの志望者数を調査し、その結果を公表するとともに、自分の成績順位及びボーダーラインも確認することができ、これらのデータを参考にしながら移行先を選択することができます。

② 進路登録

志望調査の結果などを参考に、**第1次進路登録**(3月上旬)を行います。ここでは、移行志望先を1つ選択します。

移行する学類・専攻は第一志望優先で決定され、定員超過の際は移行点対象科目の成績評価に基づいて算出される「移行点」を用いて決定されます。第1次進路登録で選択した移行先が既に定員に達した場合は、第2次進路登録(3月中旬)で移行志望先を1つ選択します。移行先の決定方法は第1次進路登録と同じです。

この段階で移行する学類・専攻が決定しなかった学生を対象に、第3次進路登録(3月中旬)が行われ、第3志望まで選択します。その結果などを参考に移行先が決定します。



お問い合わせ先

金沢大学学生部入試課

〒920-1192 金沢市角間町

E-mail: boshu@adm.kanazawa-u.ac.jp

URL: <https://www.kanazawa-u.ac.jp/>